

◎第二十一回シニア講座

10月11日に、母娘で経営している田園ファームのオーナー高鹿俊子さんを講師に迎えて、その狙いや現状について紹介してもらいました。



三郷市役所を退職されてから、所有する畑を有効に活用する方法を考えていた折に、ご主人を失くされ、失意のうちに娘さんと取り組んだのが、田園ファームの立上げでした。

ブルーベリーの栽培、観光農園化、加工品の開発、最近ではカフェの経営など、母娘で挑戦しています。集客を拡大するために、SNSを活用しており、その季節にはにぎわってきているそうです。

吉川市では、女性と農業とのかかわりについて関心を示しており、そのいいお手本としても注目されています。



最近開発された玉ねぎクッキーのサンプルを、参加者にふるまわれて、これまでにない味わいに皆さん感心していました。

◎第二十二回シニア講座

11月8日に開かれましたシニア講座は、昨年3

月の講座が大好評でしたので、再度講師をお願いしました。橋本さんによる「80代を生き生きと過ごすために Part2」でした。



前回同様に、可能な限り自宅で自分らしく生きるために気を付けることや、活用できるサービスについて紹介してくれました。介護保険の仕組みや利用する時に注意する点、訪問介護などのサービスを活用することで、自宅で生き生きと過ごす方法など。

また、ご自分の不注意で大腿骨骨折を経験したことで、普段の生活での注意点や、リハビリ生活などについて貴重な体験談を披露してもらいました。



◎姉妹団体の設立

シニアが地域社会で生き生きと活躍できる場を企画・運営するために、合同会社プロイデ吉川を立ち上げました。

ボランティア活動では限界がありますので、もっと能動的に展開するために、法人格を取得することにしました。

ここでは、色々なシニアの活躍できる場を企画

運営することで、事業として成り立たせることになります。以下の4名の出資者によって、10月14日設立しました。

〈浅野英世、志賀廣夫、荻須憲司、松田隆司〉

現在、具体的な活動計画を議論しながら、準備を進めております。まずは、ウォーキング好きなシニアによるポスティング活動や家庭菜園などでできた余分な野菜を持ち寄って朝市を開くことなどを計画中です。



◎第二十三回シニア講座

12月13日に開かれた講座は、中曽根自治会長の澤登さんによる「シニアこそ入ろう！町会・自治会へ」で、町会・自治会が持つ潜在力についての話でした。



各地区の自治会への加入率が低下している現状で、中曽根自治会の活動について紹介されました。自治会が有する機能の中で、特にシニアにとっても重要になるのが、災害時の協力関係です。

実際の水害による避難体験から企画された車中泊を体験する「防災ピクニック」、それに続く「防災まつり」の様子を紹介しながら、自治会が果たす重要な役割を示しています。

最後には、現に自治会長として活動されている

参加者や地域活動が専門の元大学教授からもコメントがあり、自治会の役割の重要性や日常生活において不可欠な仕組みであることを認識する講座になりました。

◎YouTubeの視聴回数

シニア講座は始めてから丸二年がたち、第二十三回を迎えました。初回から、その様子をYouTubeにアップしておりますが、これまでの視聴回数を整理してみました。視聴回数が100回を超えたテーマを並べると次のようになります。

第四回「80代を生き生きと過ごすために」	521回
第二十二回「80代を生き生きと過ごすために Part2」	332回
第三回「吉川市の歴史について」	309回
第十回「ハーブとアロマで心身をリフレッシュ」	260回
第五回「楽しいハーモニカの世界」	188回
第六回「木の温もりとサクスの響き」	184回
第八回「アメリカ生活22年を振り返って」	139回
第十三回「吉川の寺子屋と落語」	109回
第七回「田んぼとナマズ」	100回

なお、総数は3,080回に達しており、多くの方々に、色々なジャンルに興味をもっていただいている様子うかがえます。

◎会員の部屋

「AIと頭脳」(勝木)

個人的には、ChatGPTやGeminiを使わない日はありません。

生成AIは、ここ2年程の間に、労働市場を一変させました。生成AIに、アプリの制作を依頼すると極短時間に、アプリを作って回答してきます。従来、アプリ開発を担ってきたDigital Nomad(電脳遊牧民)と言われるホワイトカラー集団は不要になったのです。一方で、生成AIを運用するには、膨大な電気エネルギー、ファシリティが



必要で、労働市場は、ブルーカラーに移行してきています。

生成AIと人間の脳を比較すると、エネルギー効率に圧倒的な差があります。

大規模AIモデルの学習・稼働には、データセンターで数メガワットの膨大な電力

と冷却が必要です。一方、人間の脳はわずか約20ワット（電球程度）で、複雑な思考や芸術文化活動を行います。

脳は体温の約37°Cで動作し、極めて微細な化学的・電気的信号伝達によって、AIのハードウェアより遥かに高い効率を実現しています。

溢れた電脳遊牧民を工場に集めて、AIとして稼働して貰うのは、ブラックジョークだろうか？

「祭り」(浅野)

吉川市では、400年の歴史を持つ八坂祭りが、毎年7月に開かれます。最終日には、各町内の9基の神輿が大通りに集まり、暴れ神輿の競演が行われ、多くの見物客でにぎわいます。

祭りは悪疫退散、商売繁盛、五穀豊穰を願って行われると言われていました。しかし、最近ではむしろ町内の一体感を醸成する役割が大きくなっているように思えます。同じ町内に住んでいても、普段はあいさつ程度の付き合いでも、お祭りのために一緒に周知な準備をして、当日はみんなで息を合わせて神輿を担ぐとなると、連帯感が強くなります。また、神輿の競演で他の地域との競い合いになると、一層力のベクトルが合わさってくるのが分かります。

神輿の先頭は幟提灯を持つ子供たちが先導しています。また、神輿を担ぐ若手のリーダーに加えて、必ず年配者が付き添って一緒に練り歩いています。そして、何かあると若手のリーダーが、

その年配者に相談しながら、その場を取り仕切っています。これが400年の伝統を持つ祭りの秩序を保っているのです。

この祭りという非日常の活動によって、町内の横の繋がりに加えて、幅広い年齢層も繋げることができています。そして、神輿を担ぐ側と見物する側の双方で、地域全体の連帯感や帰属意識を感じあえるようになっていると思います。



○会員情報

正会員【9名】：渡辺次雄（副代表）、須藤春美（会計）、浅野英世（代表）、松田隆司、渡辺雅子、鈴木幸夫、長川肇、勝木公雄、前野美幸

賛助会員【1社、6名】

団体・法人：（株）木工房シン（関）

個人：井橋定生（茨城）、加藤勝義（東京）、佐藤克也（茨城）、高口恵子（熊本）、仲間昇（栃木）、浅野美智代（美南）

シニア2丁目事務局（浅野）

☎ 080 3691 0576

✉ senior2chome@gmail.com

URL <https://newyoshikawa.com>



(2025年12月31日)